

令和6年12月 教育委員会定例会議事録

1. 日 時 令和6年12月25日（水） 午前10時00分 開会
午前11時55分 閉会

2. 件 名 河南町教育委員会定例会

3. 開催場所 河南町役場 庁舎4階 大会議室北

4. 出席委員 教育長 中川 修
教育長職務代理者 西川 幹雄
委員 藤原 充
委員 高井 美恵子
委員 杉田 みはる

5. 事務局職員 教・育部長 谷 道広
教・育部理事兼指導主事 内山 裕生
教・育部副理事兼指導主事 柏木 俊介
教育課長 藤井 康裕
こども1ばん課長 山田 恵
給食センター所長 浅井 明郎

（審議内容）

教育長	それでは12月の教育委員会定例会を開催します。まず初めに、本日の定例会の傍聴につきまして、その申し出がなかったことをご報告します。 次に本日の出席者は5名です。定足数を満たしていることをご報告します。 次に、会議録署名委員は、河南町教育委員会会議規則第17条の規定により、杉田委員に決定してよろしいでしょうか。
全員	異議なし
教育長	ご異議ないようですので、会議録署名委員は杉田委員に決定しました。 それでは本日は、議案はありませんので、「第2. 諸報告、その他」に進めさせていただきます。 まず「(1) 令和6年12月定例会議 一般質問要旨（教育委員会関係）について」、事務局の説明を求めます。
事務局	「(1) 令和6年12月定例会議 一般質問要旨（教育委員会関係）について」、資料に基づき説明。

教育長	この件について何かありますか。
委員	<p>1つお願いします。議員から中学生の自転車通学に対する質問がありました が、皆さんご存じのよう¹に道路交通法が改正になって、自転車は原則、車と同 じように、道路の左端の、歩道との間で、最近よく自転車のマークが書かれて いるところですが、そこを走行することになりました。だけど、現実を見ると、 結構今でも歩道を走っているのです。いろいろ調べてみると、歩道を走っても いいという地区もあるらしいのです。河南町は、歩道を自転車通学するという 条例があるのですか？</p>
事務局	<p>各市町村の条例ではなく、道交法の中で原則は、自転車は軽車両なので車道 を走ることとなっていますが、例えば、お年寄りであるとか年齢が小さい子 どもさんであるとか、車道を通過することで余計に危ないような方の場合もある。条 件や場所によっては、自転車が車道を走ると危ないような場所があるとい うことで、そのような場合、安全という意味で歩道を走っていいという規定があり ます。</p> <p>実は、河南町立中学校の自転車通学については、6月に富田林警察に行って 確認をしています。山城バイパスでいきますと、寺田のいわゆる関電前のと こから大宝の交差点までというのは、道路の規制、警察の規制として歩道を走 つていいという規制をかけています。これは警察も、このエリアでは歩道の方が 安全だという認識があつて規制をかけてくれているのだと思います。</p> <p>白木バイパスの方は、いわゆる規制という意味ではかかっていないけれども、 それでは車道を走らないといけないのかという話ですが、歩道という形で設置 はしていないが、ガードレールで区切られている空間があり、そこは歩行空間 だらうということで、そこを自転車が通るのはOKだという認識を警察からい ただいています。なぜかというと、あそこは、自転車が車道を走ると、やはり 通行量の多さとかダンプカーが走っているとかもあるので、安全面で見て、歩 行空間のところを走つていいという認識をいただいている。そういう面から も、中学校の通学ルールのところで、特に危ないと思われるところは、歩道と 車道どっちを走るかというと、歩道を走つてもいいというエリアの確認はでき ています。</p>
委員	もう1点。この自転車の賠償問題というのは、わたしの専門でもあるの ですが、自転車の運行を考えた場合に、まず考えないといけないのは、自転車を操 作する運転者の搭乗中の傷害事故。それと、自転車操作中に第三者を巻き込ん

だ対人対物事故、この賠償をどうするかという問題です。自転車保険というネーミングでPRされている保険がありますが、保険業界では自転車保険という商品はなく、個人賠償責任保険というのが正しい商品名です。まずこれを皆さんと共有したいと思います。

日本では、この個人賠償責任保険には、第三者を巻き込む対人対物事故を起こした場合、示談代行制度がついています。加害者が、被害者と和解するための話し合いはしなくていい。解決のための話し合いはすべて、担当する保険会社の担当損害調査社員が行うという約款になっているので、加入者にとって非常に安心です。

わたしから推奨したいことは、保険に入るときに、対人対物賠償の保険金額を決めます。最も安心できる対人賠償は無制限、アンリミットです。この対人賠償額に1億円の縛りをつけるのと無制限とでは保険料的にはあまり差がない。だから、中学生が、この個人賠償責任保険、いわゆる自転車保険に加入する場合は、対人対物賠償無制限を推奨していただければありがたいです。年間保険料は2,600円ぐらいです。無制限を教育委員会としてもすすめてあげてください。

教育長 他に何かご意見ありますか。

委員 中川議員の八尾市の取り組みについて、不登校支援事業のところ、八尾市がいろいろとされているのをあまり知らなかつたので、読ませていただいた。河南町では、出張型教育支援センターというの、「さくらルーム」と「にじいろ」にあたるのかなと思いました。この取り組みは、すごくいいなと思っています。

今、不登校になる理由というのが、単にいじめとかではなくて、どちらかというと、学校の騒音に耐えられないとか、別に勉強が嫌いなわけじゃないけれども教室という空間に居ることができないというような子がすごく増えている。だから、同じ学校の敷地内にいろんなタイプの居場所があるというのはすごくいいなと思っています。私の勤務先のフリースクールにも河南町の子どもがいらっしゃるので、「さくらルーム」ができるから、学校にちょっと行ける目が増えたという子は、もう1人だけじゃなくて、結構、複数人いると聞いています。ぜひこの取り込みは続けていってほしいですし、作っていただいたことに感謝しています。

教育長 ありがとうございます。現状はどうですか。

事務局	<p>出張型は、かなん桜小学校では、今の段階で3名です。真にそこを必要としている子が3名。幅広い意味で利用している子は2名で、5名という形です。</p> <p>近つ飛鳥小学校では、1人。休み時間に少し覗く。今まででは行き場がなくて、休み時間ひたすら廊下を歩いていた子が、ちょっとそこを覗いて、先生としゃべったりするということです。</p> <p>ただ教育委員会としては、各校とも週に1回、それ以外は学校の校内体制でやっている部分もあるので、予算取りをしてなるべくその回数を増やしてあげたい。それと、堺の大蓮公園に「きみの森」というフリースクールが出来たのです。今年、各校に派遣している支援員さんに、そのフリースクールに通う子ども達の様子を見てもらうということで視察に行って、実際になぜ不登校になつたのかという話をするなど、子ども達と交流しました。今まででは、不登校支援というと、教室に戻すことがゴールみたいなところがあつたのですが、そうではなくてあくまで居場所づくりとして河南町ではやつてているという認識を固めた上で、今年派遣させてもらつてるので、僕自身は支援を受ける側の元教員ですが、現場の先生方もすごく認識が変わつたかなというところです。</p> <p>直近に教育相談から「ほこすぎルーム」につないだ子も、学校に行く機会が増えたことがすごく良かった。お母さんもすごく充実感と安心感をもつておられます。この事業を続けていって、どれだけ拡大していくかというところがポイントかなと思うので、がんばりたいと思います。</p>
委員	<p>すごくいいと思います。福祉と教育というのをもっと本当は一体化するべきだと個人的には思うので、すごくいい取り組みだと思います。河南町がこんなすごいことをやつているのは、私は誇れる制度だと思っています。</p>
教育長	<p>それで言うと、KANAN BEAMで「つなげる」ということを言つてゐるので、やり始めて見えてくる部分があります。指導員さんの不登校についての認識も今、指導主事が言つたような変化がある。学校も意識はしてくれているのだけど、それを学校側と指導員さん達でどういうふうに共有していくのか、それをどこまで全体で共有できているのかを、しっかりとつなげて、確認も含めて繰り返しやつていかなければならぬというのが見えてきつてゐるので、より良くしていきたいと思っています。</p>
委員	<p>通学路の安全対策について話を戻しますが、寛弘寺の例ですけれども、以前まだ中村小学校に通つてゐる時、結構、自動車も通るところに白線を引き、子どもが通るところにはグリーンベルトのラインを引いていた。毎日信号に立つ</p>

	<p>ていただいたりする地域の方が言っておられたのですが、まっすぐ寛弘寺のバス停に向かって歩いてくる道も結構車が多くて、車同士が対向できないぎりぎりなところもあるので、そこにグリーンベルトのラインをひいてもらったら、子どもを送っていくときに安全だからというお話でした。以前一度、新田教育長のときにも、地域からこういうお話が出ているということがありました。毎朝、寛弘寺のバス停まで、地域の方や保護者の方が、子どもを連れて一列にならんと気を付けて歩いて行っている。白線はあるのですが、そういう時に安全ベルト的なラインがあったら、安全という意識が高まるのではないか。それが1点。</p> <p>もう1点は、子どもが帰ってきた時、スクールバスを降りてきた時、迎えに来ておられる方が出屋敷なんか結構おられます。いつも世話を聞いていただいている民生委員の方がおられるけども、寛弘寺のバス停から北に向いたら結構道路が狭い。旧道に入ったらわりと安全で、そこを通って帰てくる子どもが結構います。時々女の子が2・3人で交通量の多いところを帰っているのを見た時、事故が起こらなかつたらいいのになあと思います。下校の時、特にああいう危ないところを、保護者の方が迎えに来ていない時、子ども達も達同士で帰っているのを何回か見ていて、気をつけてと声をかけています。事故が起こらなかつたらいいのになあといつも感じていて、危惧しています。朝は、皆さん送つてこられて、時間が決まっているので大丈夫だと思います。</p>
事務局	<p>通学路安全プログラムでは、具体的にあの箇所だけではないのですが、寛弘寺の路面標示とかは、確かに府が立ち合いをしての件だと思うので、府があの道の危険性は認識していると思います。ただ、道路幅が狭いので、グリーンベルトを引いたときにどうなるかという点で、ちょっと難しいところがあるかもしれません。</p>
委員	<p>だからあそこは無理だと思うけども、寛弘寺のバス停へずっと降りてきて行くところぐらいなら、今でも白線が薄く残っているのでその辺はできればグリーンベルトを検討してほしい。子ども達もこれから普段でもそこを歩くだろうし、通学路としてだけでなく普段にも使えるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>また府や警察と話をする機会があるので、向こう側も危ない箇所をどう認識しているかとか話す時があると思います。</p>
委員	<p>そうですね。また、そういう提案をしていただけたら嬉しいですね。</p>

教育長	今みたいなことを言っていただくと、この5人の中でも、皆さん大体、場所のイメージができると思うので、それが大事なことだと思います。あと具体的にどう対応していくのかは、事務局の回答にあったように、できる部分とできない部分があつたりする。しかし、できなかつたとしても、やっぱりその意識をどれだけ地域と共有できるかという点が大切だと思います。
委員	子ども達にも、本当に気つけてほしいと思います。特に、友達と話をしながら歩いたり、走ったりしているときには、気をつけてと声をかけるのですが、いつも見ているわけではないので。
教育長	今また寛弘寺から通学する子どもが、例えば僕が学校現場にいた頃より、増えてきている。
委員	増えてきています。
教育長	あの道筋でバスに乗る子が、増えてきているという状況もあります。あの道沿いは、ずっと出屋敷の方もそうだけど、大きなバスが通る時もあるから、気をつけないといけない箇所であることは、昔からずっと認識はしています。 はい。このことについて、他の方はよろしいですか。ないようですので、次に「(2) 令和6年度修了・卒業式及び令和7年度入園・入学式について」、事務局の説明を求めます。
事務局	「(2) 令和6年度修了・卒業式及び令和7年度入園・入学式について」、資料に基づき説明。
教育長	この件について何かご質問ありますか。また、どなたがどこに行っていただくかは、後日ということで。よろしいですか。 では、「(3) 二十歳の集いについて」、事務局の説明を求めます。
事務局	「(3) 二十歳の集いについて」、資料に基づき説明。
教育長	この件について何かありますか。よろしいですか。 では次に「(4) 令和6年度大阪府市町村教育委員会研修会について」、事務局の説明を求めます。

事務局	「(4) 令和6年度大阪府市町村教育委員会研修会について」、資料に基づき説明。
教育長	<p>はい。この件について何かご質問ありますか。よろしいでしょうか。</p> <p>では、「(5) 2学期の振り返りについて」です。冒頭で申し上げたように、視察を何度か行っていただきましたのでそれも含めて、ご感想とか、ご意見いただけたらと思いますのでよろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>2学期の振り返りについて、主に教育委員さんにご参加いただいた2つの取り組みについてご確認いただけたらと思います。</p> <p>1点目は、かなん子ども科学賞展、かなん読書感想文コンクールの授賞式についてです。</p> <p>まず日時は11月2日土曜日でした。子ども達は8時50分から集合で、授賞式が9時50分、1時間少しぐらいの式典でしたが、時間であるとか、授賞式の中身であるとか、式典会場や或いは作品展示場、全体会場、その辺りなども含めて、少しお話し合いいただき、次年度に生かしたいと思っていますので、振り返りをお願いいたします。</p>
教育長	<p>1つ目、11月の科学賞及び読書感想文コンクール表彰式、ポイントとしては、時間帯の設定がどうかということ。それから内容がどうか。場所は、ふくふくドームでやっているがどうだったかということ、あとは、作品展示場をアリーナの方にしたことについてどうだったかという4点です。例えば1点目、時間帯について何かお感じになったことがありますか。はい、どうぞ。</p>
委員	私の記憶がどうかということですけども、去年は開会式も舞台の下でやっていました。
事務局	去年は下でやっていました。
委員	今年は舞台の上に上がって、式の後で下に移動することで、時間のロスはどうだったでしょうか。
事務局	それほどロスはありませんでした。

委員	そうですか。
事務局	どうしても、中学校の演奏の楽器を、表彰式をしていただいている間に運ぶ必要があるので。
委員	それで舞台に上がってきたということですか。でも、全部通して見たときに、文化協会が上がって、私達の表彰式だけで、もうすでに時間が押しています。
事務局	そうですね。10分ぐらい押しました。
委員	最初から10分というのはあってはならないと思うので、タイムスケジュール管理をきちんとしていかなければならない。それで、もし入らないなら、挨拶を少なくするとか、何かその段取りとかシナリオとかをもう少し綿密につめておいて、表彰式の時間や子どもの動きのことなど、きちんとできるように、来年度は検討した方がいいのではないかと思いました。
事務局	今年、挨拶が予想以上の長さでしたので。
委員	そうですか。
事務局	時間が読めませんでした。
委員	でも、そうであれば、「何分でお願いします」とお願いしていくことが大事かなと思います。そこが押したのであれば、後ろで調整して、私達に配分されている時間を守るということが大事かなと思いました。
教育長	それは改善していきましょう。
委員	展示も読書感想文をファイルしてくれたことで、手にとって見ている人が多かったのか、それとも貼つてあるほうが見栄えがしたのか、どうだったのかということを思いました。会場の人たちの反応が分からぬのですが。
教育長	その点について意見が上がってきていますか。感想とかありませんか。
委員	手に取る形は読みやすかったし、貼るよりずっといいと思いました。科学賞

	で表彰された場合、研究のタイトルは言うけれども、内容は一切触れないで、式典の中で少しだけでも内容の紹介があつてもいいのかなと思いました。 講評はきちんとしてくださっていましたが、せっかく子ども本人が居るので、1人ずつにお褒めの言葉というか、フィードバックがあつてもいいのかなと思いました。
委員	内容を充実しようと思ったらやっぱり時間が足らないです。
委員	そうですね。そこが悩ましいところですね。
委員	表彰されたものは、一言二言でもいいので、こういうところはちょっと頑張つてやりましたとか言葉かけをしてあげたいですね。読書感想文も科学賞展も、これを継続するのはとても大事なことです。時間の問題もありますが、今、読書離れが進んでいると言われるので、将来に向けて、マンネリになってきていくところを改善し、何か色付けするということも必要かなと思います。
教育長	トータルで考えていきましょう。時間を守るということは大事なことだと思うので、初めの設定の段階でどんなふうに組むのか、依頼の仕方も含めてご意見もいただいています。なおかつ、ここはもう少し手厚くしていくほうがいいのではないかというご意見もいただいているので、もう1回時間設定をしっかりとして、その日1日、式典だけでなく、その後に続くいろんな取り組みもあるので、全体的な視点をもって軽重をつけて行う。そのようにして改善したらいいのかなと感じました。
委員	やっぱり子どもが中心だと思う。おうちの方々もみんな来ておられるので、子ども達から、頑張ったところについて一言話すぐらいはあったらいいかなと、僕は思います。
委員	私も今の発言に大賛成です。確かに限られたスケジュールの中で、いかに科学賞や読書感想文で頑張った子ども達を表彰していくのか。表彰式があるけれども、それについて主催者側から先生が最後に締める言葉をいつもされています。 委員として、私も聞きたいことは、頑張った子ども達が、どんな情熱と熱意を持って、この作品に取り組んだのかという生の気持ちです。子ども達に一言二言でもいいので発表してもらいたいです。それを何とか組み込めないかと、

	前から思っていました。主人公は、彼ら、彼らですから。ただ賞状を渡しておめでとう、だけでは。来られた保護者も、子ども達の思いを聞きたいと思います。
委員	最後の講評は、教育長にまとめて言ってもらってはいかがでしょうか。
教育長	<p>今のご意見をまとめると、大人が話すことより子どもが話す場面を増やそうというのも1つだし、ただ、やっぱりあの場で子どもが話すとなると、多分事前の準備が相当必要になるので、今までとは違うところで時間の問題などが出てくるかもしれません。でもそれはいい経験ですね。</p> <p>やっぱり子ども達に経験させることが大事だというのであれば、おっしゃるように、もう大人の言葉をなしでもいいぐらいの感じでやっていく、そうすると、決められた時間の中で何に焦点を当てるのかというあたりも見直しができたらいいのかなと思います。</p>
委員	言いたいことがいっぱいある子もいると思いますが、例えば、ある程度字数を制限して、100字以内で書いてきてねとか、そんなふうに時間的なところもふまえてやってみてはいかがでしょうか。
委員	すごく素敵だなと思うのですが、もし、自分が表彰される子どもだったら考えると、表彰していただくのに、さらに課題が新たに増えるって思ってしまいます。
教育長	いや、正直なところ、それはあるかもしれません。
委員	例えばその感想文の中で、すごくよかったです1文だけ、その場で発表するとか。
委員	子ども達には、いつわかりますか。自分が選ばれたというのは。
委員	9月に入ったらすぐです。
事務局	各校の選考は夏休み期間が終わってから行います。次に、町の金賞・銀賞・銅賞を各学校の代表者が集まって決めます。9月の下旬には終わります。
委員	9月の終わりごろですね。

事務局	本人への通知も、おそらくそれぐらいのタイミングです。
委員	それなら、子ども達にとって少しは時間があるわけですね。
事務局	<p>夏休みが終わって作品は手元に来るのですが、読書感想文であっても、やはり見栄えを良くするという作業を、教員の指導の中します。</p> <p>科学賞の作品についても同様で、見栄えするような形であったり、補強であったりということはしています。</p>
委員	そういうタイミングだったら、今年は、ちょっとコメントを発表することになったよ、こういうふうに発表したら、と先生の指導も入れてもらってはどうでしょうか。
教育長	委員がおっしゃっていたのは、子どもに良い経験になると思う反面、ちょっとまた負荷をかけることになるのでは、ということですね。以前は、それぞれ読書感想文と科学賞を選んだ先生が、選んだ理由やその作品の良さなどを簡単に話していた時代があったような記憶があります。今は、それも全部含めて、教育委員から言っていただいている。しかし、今日のご意見では、もう少し作品の中身を紹介できたらいいな、それを本人が言うのが一番いいなということですね。
委員	読書感想文と科学賞の金・銀・銅賞の全員が話すことは、時間的に無理です。
事務局	そうですね。今日の議論の前段の方で、時間を短縮しようという話もしたところですし、表彰対象の子どもは20数人来るので、時間的に厳しいなと思います。その代わり、子ども達の頑張りをどのようにして時間内に入れるかを考えてみたいと思いました。
委員	それでしたら、もう代表の子を選ぶしかないですね。
委員	わたしもそう思いました。科学賞で金賞1名、読書感想文で金賞1名、2名を選考する。私もよくビジネスの世界でやりますが、3分間、いきなりぽんとテーマを与えて話をさせる。3分間あれば結構話ができます。2人で6分間なら時間的にもいけますし、内容的にもかなり話せると思います。

教育長	<p>この論議の出始めは時間設定のことでした。これをもう1回しっかりとすること。内容については、今出てきたご意見をふまえて考えるということですね。</p> <p>場所は、冒頭に出ていましたが、フロアでやるということはいいのですね。</p>
事務局	どうしてもやっぱり、吹奏楽部の準備が必要なので。
委員	去年のように、最初の開会式を舞台の下でやってしまえば、楽器を降ろしたりとかしなくていいのかなと思ったので。
事務局	時間のロスはあまりなかったのです。
教育長	作品展示の場所もあそこで、展示の仕方については、以前ご意見が出ていた。
委員	その文化祭典の時もすごく思ったのですけど、プログラムが全戸配布されない、何時にどこのチームが出るかっていうこともわからない状態だったので、広報紙と一緒に、団体の出演のタイムスケジュールを配布してもらわないと、見に行く方も見に行けないし、直前になってホームページをちゃんとラインで送っていただいたからいけたけれども、何かお客様に来てもらえるような工夫というのを、今後も考えてもらいたいと思います。
教育長	<p>1つ目のコンクールの表彰式については、今日のご意見をふまえて考えています。</p> <p>2つ目、教育委員さんの学校園への訪問。これは結局、各校2回ずつ行っているのですか。</p>
事務局	<p>基本的には、次年度も行きたいと、事務局としては思っています。年度当初の学校園の様子について、委員さん方が保護者の方などの質問を受ける場合、1度でも学校園を見ておいたときと、そうではないときでは違うと思います。年度当初というのは、広くこんな形で子どもたちが頑張っていますという、本当に施設訪問というような意味合いが強いですね。</p> <p>2回目は、特に小中学校においては、学力に焦点を当てた訪問ということで、今年度新たに設けさせていただきました。今日委員の皆さんにお聞きしたいのは、2学期の訪問のあり方について、今年度の訪問がほぼすべて終わった状態</p>

	でのご意見をいただけたらありがたいと思います。
教育長	<p>回数としては各校に2回行っていただきました。1回目は、できるだけ年度の早い時期で、どんな様子なのか。或いは、校長先生、園長先生がどんなビジョンを持って取り組んでいるのかを共有することが目標でした。</p> <p>2回目は、小中学校については、学力という部分、授業を中心見るというような設定でした。その辺について、皆さん本当にいろいろなことを感じられていると思うので、自由にご意見を出していただきたいと思うのですが、いかがでしたか。</p>
委員	現場の校長先生や先生方の受けとめ方はどうでしたか。
委員	私たちが行ったことをどのように考えておられるのでしょうか。
委員	<p>教育委員会から学校視察という形で行ってもらって、仮に自分が受ける側の校長の立場であったら、せっかく来ていただいたのだから、こんなところを見てほしいとか、こんなことを教育委員の皆さんにお願いしたいとかいう思いと、ちょっと大変やなあ、委員さんに好意的に受けとめてもらえるのか心配だ、というふうな思いと、両方あるのではないかと考えるので。</p> <p>委員の皆さんには、きちんとした丁寧な対応をしてくださるし、僕らも嬉しいのですが、僕は、来ていただいてこんなところを見てほしいとか、こんなことをやっているのもぜひ理解してほしいなと思うだろうな、とつい視察を受ける側の立場で考えてしまうものですから。</p>
事務局	<p>これはちょっと個人的な意見ですが、毎月となると負担感があるかもしれません。しかし、年度当初は時期がわかっていますし、2回目も負担はないと思います。教育委員会が伺うにあたって、別の資料作ってくださいとか、そういうことは全くありません。日頃の授業を教育委員さんという立場の方に見に来ていただけるというのは、自分自身を律する良い機会だと思っておりますので、委員さんにはご遠慮なくというか、教職員は特に負担感はありませんので、今後も学校視察をぜひお願いしたいと思います。</p>
委員	うん、なるほど。
教育長	今最初に、2回の意味づけを言ってもらいました、我々はそういうつもりで

	<p>行っていますが、そういうことは学校には伝えていたのでしょうか。</p> <p>例えば1学期に行ったりするときは、まず年度の立ち上げの雰囲気とか、こういう方針でというようなところを、教育委員さんたちは自由に見に来られています、と伝えていましたか。</p>
事務局	<p>基本的に校長会に参加しているメンバーはよくわかるのですが、2回の視察の目的は校長には伝えています。特に2回目は学力に焦点を当てる、ということなので、校長から現場の教員にどう話しているかというところかなと思います。多くの場合、各学校で学力向上に特化した研究授業を、我々は視察させてもらっているので、ある程度視察のねらいは伝わっていると思っています。</p> <p>もし、今ちょっと申し上げるとしたら、学力向上に特化した部分でいくと、広く均等に各教室を見ていくのも良いのですが、例えば今年の中学校で実施したように、ある特定の学級のみ視察することによって、授業者のねらいとか、指導案もその場合は手に入るわけですから、こういう意図を持って授業をしているのだということが深く理解できると思います。</p> <p>こども園の場合は、どうしても各教室を広く見て回る形にならざるを得ないということがありました。そのあたりはどちらがいいのか難しいところです。</p> <p>でも、例えばこども園でも、2学期は千代田短期大学と連携をする中で、公開授業、指導案を立てた授業を、特定の学級だけですが中村こども園でも実施しています。全体の視察でなく、部分になりますが、そのかわり深く理解することができますので、事前に委員さんからご要望があったら、お応えできるかなと思っています。</p> <p>今回の中学校、近つ飛鳥小学校も自由に見てくださいという方式でしたね。</p> <p>かなん桜小学校では、今回は体育館という場所でしたが、1年生と2年生を合わせて視察しました。そのように広く見に行くのがいいのか、ある学級の指導案に基づく授業の進め方を見る方がいいのか。委員さんが後者を希望されるならお応えできるかなと思います。2学期はそういう形は多いので。</p>
教育長	<p>今、指導主事が言ってくれたような、視察の目的というか、ねらいというか、その辺はどうですか。それも含めて、実際みた感想を合わせて、どうですか。</p>
委員	<p>もう1つ聞きたいことがあります。</p> <p>前回の中学校の英語の視察でしたけども、すごく鮮烈でした。何が鮮烈か。視察が終わってから、わずか10分ほどの間でしたが、別室で講師の先生とちょっと意見交換や懇談をさせてもらいました。</p>

私たちも、少なくとも私は、子ども達がどう学ぶかっていうことに主眼を置いて見ていたのです。今まででは。ところが中学校の英語のときに、講師の加賀田先生は、全く違う観点から見ておられました。

担当教員の指導力を見ておられたのです。その担当教員の指導力や教え方に対する意見をズバッと評価されたので、聞いていて、すごいことを言われるなと思いました。あの後、担当教員を交えてミーティングされたでしょう。差し障りない範囲で、どういう話し合いがあったかお伺いしたいのですが。

事務局

実は、大阪教育大学の加賀田哲也教授から事前に、どこまで言っていいですかってご相談を受けていました。加賀田教授はとても冷静な方です。「僕はあくまでこの1時間見に来ただけだから、普段の200何日過ごしている先生と子どもたちの関係はわからない。わからない中の1日だけを切り取って僕はこんなこと言うのだけど、もしもそれを言うことによって、先生のキャリアに傷をつけたり、今後の生徒との関わりに支障があったりするのだったら、僕は口をつぐむ部分が出てくる。」と最初に言われた。

いや、それは授業者個人に返すのではなくて、河南町として受けとめて、町全体としての学力向上に生かしたいので、ぜひ忌憚のないご意見をいただきたいと返したところ、じゃあ、言いたいことを言いますね、となった次第です。

1つは、人権の観点から教材が適切だったかどうかということ、もう1つは、英語の授業に関することで、子どもたちの英語が聞こえなかったというふうに表現されたと思いますが、そのことについて、大きく2つの話をされたという感じでした。

はじめの人権の視点と教材の話ですが、学校から上がってきた指導案やワークシートには事務局も目を通して、校長先生に上げます。今回、カードについて見落としていたというのは、担当教員個人の責任ではなく、事務局の責任であるので、2人の指導主事が共有してしっかりと見ていかなければ感じています。特に外部講師を招聘する場合や、新人の授業では、手厚く見ないと、誤解や偏見をもったまま授業を進めていくと、結局子どもに伝わってしまうおそれがあるので、そこは注意しなければいけないということになります。

ただ加賀田教授は、最初はそういう厳しいことをおっしゃったのですが、一方で、先生方との協議の時間をすごく持ってくださった。1時間40分、講義調になっていくと、どうしても途中で話のポイントがわかりづらくなることがあります、合間に先生方との協議の時間作ってくださったので、今、教授は、こういうことを言いたいからこの協議がある、それをフィードバックして、なるほどそういう考え方もある理あるけど、こういう視点で見たときにどうですか

と言った時、先生方は、こんな授業展開もできるかも知れないと、はっと気づかされた。スタートは、ゼロよりもむしろマイナスからでしたが、終了後はそれぞれが、次の日からでも活かせそうな授業のアイデアを持ち帰ってくれたのではないか。今回は、小学校の新任1名、中学校の国語の先生も新任で1名いたのですが、これ小学校に戻ったときに子どもらの音読で使えそうだな、これは英語のことだが国語でも使えそうだな、というふうな学びを持ち帰ったので、かなり意味のある討議会だったと。スタートが、一言で言うと失敗だったからこそ、逆にいろいろ得るものがあったかなと思います。今回の事を機に、河南町教育委員会事務局も、2小1中のそれぞれの学校も、学力向上のスタートに活かしていこうというふうな、とても実りのある討議会だったと思います。

委員

ありがとうございます。感動しました。いいお話です。

委員

2回目の視察の際は、こういうところをちょっと大事にして見てほしいとか、その授業を見る視点などを予め言っていただくとありがたいです。この子にポイントをあてて授業展開しているとか、指導しているとかいう、子どもを主眼にした見方をするのか、授業内容を見るのかという視点を言ってもらえたと 思います。

学力向上に関わる視察ですから、去年の近つ飛鳥小の校長先生もいろいろなことを言ってくださって、よくわかるのですが、授業についてもう少し説明していただけたら、僕らが見るときに見やすい。そうかこの辺で頑張っておられるのだなあとか、ここを重点的に授業をやっておられるなということがわかるので、プリントでも何でもいいので、授業の視点ということで資料を作っていて、僕らはそれをもとに視察をして、そうかこういうことを頑張っておられるのだとわかつたら嬉しいと思います。

事務局

実はあの授業の討議会は、第一部が加賀田先生と教育委員さんという形で、第二部が今言っていた討議会で、実は、もう少し指導案の内容を深めましょうということで、加賀田教授と僕と当該教員と3人での第三部を開いたのです。

担当教員はキャリア17年目ではあるのですが、指導主事からは、もう一度指導案を学び直しましょう、今回の指導案では、こことここに齟齬があるから、このままでは評価がズレてきますよという話も助言しています。こうした指導案を作る力を上げていくことで、授業者自身が自分の授業を振り返る機会も増えてくると思います。そういったところもまた、事務局として力を入れていきたいと思います。

	<p>指導案をもらった当日に僕達が行くことが多いのですが、できることならば、学校から指導案を受けた段階で、違和感がある時などには、現場に行ったり事務局に来てもらったりして、内容や構成などを検討して、授業のねらいを明確化したり、特にキャリアが浅い先生方に対しては、そういう支援をしていけたらいいなと今考えているところです。</p>
委員	<p>先生方の頑張っておられるることはよくわかりますが、いざ研究授業を見に行つた時、どこの学校だったか忘れましたが、生活科を見に行つた時に、本当にこれは皆さんで練られた内容なのかなと思ったことがありました。</p>
委員	<p>かなん桜小かな。</p>
委員	<p>かなん桜小の体育館で見た時も、やっぱり1時間中、誰もお店に来てもらえなかつた子たちがいるという結果を見た時に、その場の設定はどうだったのかなって疑問に思うようなこともありました。私たちが見てもそう思つてしまうような内容の研究授業をされるっていうこと自体が、今までいろいろ研究してきたことが、次の世代の先生方につながつていっていないのではないかとすごく残念に思つています。それをつなげていくのは、やっぱり指導主事の方しかいないと思います。指導力を高めていくような取り組みをぜひお願いしたいと思いました。</p> <p>中学校の授業については、私もすごく違和感をもつて見ていました。これつて本当にいいの、こんなことやっていいのかと思いながら、その時点で、これはおかしいと声を上げられなかつた自分をちょっと責めました。さすがに授業中に外部の者が声を出すなんてできないでしょうが、おかしいことをおかしいと思えたり言えたりする人になりたいと、その時はちょっと反省をしていました。</p> <p>その後、子ども達には教材についてもう一度説明したり、話し合つたりということはあったのか、あのままスルーしてしまつたのかというのが気になるところです。やっぱり河南町として、人権意識をもつともっと高めていくということを、今回の授業を機にやってもらいたい。</p> <p>英語の授業についても、家に帰つてもう一度指導案を見たら、評価についてやっぱり違うなと思うところがいっぱいあつたし、事前にもっとこういう授業をしていきたいというものを河南町としても提示していく。それを見に来た先生たちが、こんな授業をこれからはしていくのだというような、模範になるような研究授業であつてほしいなと思う。</p>

反省会をやって悪いということはないけれども、課題のある授業をみんなで見てもやっぱり勉強にならない。良い授業、こんなコミュニケーション力を持つような授業しているというような授業を、先生たちが見られるような研究会を作つていってほしいなとすごく思いました。

こども園についても、私は、4月に行った時と秋に行った時と、同じ内容で見るのではなく、きちんと視点を持って視察したいと思うので、そういう設定のある保育を見たいなと、個人的には思います。

その授業や保育ではこういうことを、例えば子ども達のつながりを大事にしています、だからこの設定保育をしていますというのを知った上で見ると、よくわかるので、そういう視察であつてほしいと思いました。

4月には、もちろん学校の雰囲気も見るので、私は施設とか設備とか、毎日同じところにいると気づかないことでも、違う人が見たら、気づくことが多いと思います。危険な箇所であるとか、こんなところはもう少し綺麗にしたらいいのにという視点も含めて、4月はそういうところを見て、秋については、その教育の方針や先生方の思いが伝わってくるような授業を見せてもらいたいと思います。

あともう一つ。小中交流とか保育園との交流ということで、先生方がいろいろ見に来られていたと思うのですけど、見て終わりなのか、それとも学校へ帰つて、こんなことをされていましたという報告の場があるのでしょうか。懐かしい子ども達に会えてそれだけで終わりだったら、ちょっともったいない思います。そのあと、小中、幼保の連携の中で、先生達がもう1回集まって話し合う場があるのかとか、そんな場があるのだったら、意見交換ができると思うのですけど。確か、春にそういう会議をすると言っていたようですが。

事務局

はい、やりました。今後もやります。

委員

その中で、もっと意見交流をしてもらつたらいいかと思います。

教育長

他にご意見があればどうぞ。

委員

中学校の英語、僕は、ものすごくインパクト強かったです。あの先生、僕は、子ども達一人一人をとてもよくご存じだと思いました。この子に当てたらこういう答えがとか、この子がこういう考え方しているだろうというのを、もう何か熟知してはるなという、そういう意味での指導力は感じたのですけど。

教材のカードの問題とかいろいろあったけれども、授業全体としては、中学

	校の授業は素晴らしいなと僕は思いました。大学の先生から、そんな視点では話は出ませんでしたか。
事務局	そうですね。
委員	英語の授業の様子を見ていると、グループ活動で子ども達が学習に向かうよりも、同じようなことをずっと発表させている場面があった。なぜこんなに同じことを発表しないといけないのかと感じるような。
事務局	おそらく、加賀田教授は当該教員を批判しているわけじゃなくて、あれが例えば、特活の授業とかでは問題なかったと思うのです。ただ英語っていうところになると、知識技能を根底に力としてつけるためには、当初の20分間の、1人は日本語で、1人が口頭英訳をするっていう時間は必要だったか疑問ですし、英語を教えるスキルとしては、やはり課題が多い。ただ生徒理解という視点では、十分にできているということが随所に観測できました。
委員	一番ベースになっていることが、しっかりできている。ただ、中学校の授業ってなかなか難しいこともあります。全部の子どもが本当に向かっているわけではない、本当に3分の1ぐらいしか向かっていなくて、発表の時は他の子はだらけているとか。それでも、やっていた授業の内容はすばらしかったと思いました。
委員	一言だけ意見を言わせてください。
教育長	どうぞ。
委員	この英語の授業に関しては、ちょっと私は厳しめな意見を持っています。教壇の先生が一方的に授業を展開していくって、生徒はそれを聞いて書き取るまたは本を読むというような形態から、アクティブラーニングへという方向性が必要だと思うのです。 もし僕があの場面の教員だったなら、せっかくカードとカードを合わせて、1つの文章を作り上げたのだから、グループごとにホワイトボードに向かわせて英語で書かせます。あの授業では、生徒が黒板に書くことが一切なかった。だから、活動的な授業に見えるんだけど、実際そうかと、後で考えてみたら、いや、もっといろんなやり方があったのではないかと感じました。

教育長	<p>それぞれにお感じになるところ、当然視点も異なります。しかし、今日出てきたご意見は、すべて貴重なものだと思いますし、冒頭、指導主事からも、今回の視察の目的、設定はっていう話がありましたが、特に2回目の視察については、園も含めて、どういう意図でやっているのかとか、各先生個人の思いと園や学校の方針とどうつながっているのか、どういう目標のもとに授業や保育が行われているのか、そういうものが読み取れるような何かがほしいということでした。そういうものがあれば、視察の意義が深まると、ご意見を聞いていて、そう感じました。</p> <p>1回目の視察についても、設備面など、毎日学校や園の中で過ごしている人間ではなかなか気づかない部分とかマンネリ化している部分があると思います。教育委員さんが視察で感じられたことを、学校にその通りやりなさいっていうわけではありませんが、まとめるような形で伝えて、参考にしてもらおうと考えています。来年の視察は、よりよい形を模索し、さらにフィードバックがもっとできるようして、実りのあるものにしたいと思いました。他のご意見はどうですか。</p>
委員	<p>僕らが学校園の様子を見せていただいて、校長先生と話をする一番大きな目的は、学校を応援することだと思うのです。だから、ちょっとでも頑張っておられるところはみんなで支援して、こういうところを皆さんにも見てもらえているということを、学校の校長先生はじめ諸先生に感じていただいたら、それが一番いいのかなと思います。ですから、基本的にはマイナスを指摘するのではなく、やっぱりいいところ、頑張っておられるところをしっかり応援して、学校が益々元気になつたらいいなと思うので、そこだけは忘れないようにしたいなと思います。</p>
教育長	わかりました。
委員	ちょっと質問みたいな形になるのですけど、こういう研究授業をするときというのは、指導案のたたき台は授業者の先生が作るのですか。
事務局	そうですね。
委員	今回の場合も、授業者が最初の指導案を作られたのですね。

事務局	そうです。
委員	<p>自分も教員の経験がある身としては、研究授業というのはかなり重い負担ではないかと思う部分があります。例えば、英語科でこれをやりたいっていうのが河南中としてあるのであれば、英語科の他の先生が指導案を作つて、授業者が別の先生にするとか、そのような分担というのは、現実的ではないのでしょうか。</p> <p>研究授業をするにあたつては、おそらく英語部会で集まつて、指導案をたたいた上で町に上がつてきているのだろうと思うのですが、どうしても授業者が主体になる。授業者がやりたい授業をしたらいいみたいな風潮が、今はどうかわからないのですけど、私がいた時代にはありました。ですから、授業者の先生の負担がとても大きいのではないかと正直思う部分があります。何が言いたいかと申しますと、教育方針とか育てたい力とか、この授業のどこを見てほしいっていうことをきちんと出すには、授業者1人だけでは、なかなかできにくいのではないかと。</p> <p>公開授業と研究授業とは、またちょっと違うものではないかと思います。研究授業はそんなにたくさん数をやるよりも、どちらかというとしっかりと磨いたものを見せる形なのかなと、ちょっと齟齬があつたら、申し訳ないのですが。かなん桜小1・2年生の交流授業も、中学校の英語の授業も、今回の視察においては、研究授業だったのじゃないかなと私は思つています。なので、授業者の先生は最終的に教壇に立つだけっていうところまで組織が持つていくような仕組みが要るのではないかと、子ども達の現状を見ていてもそう感じました。</p> <p>授業を磨くというのはすごく大事なことですけれども、授業者はずっと走りながらそれをやらないといけないので、分業というか、最初の指導案は教育委員会が提起してもいいのかもしれないと思います。例えば、教委から、こんな授業やってほしいのですけどどうですか、この授業をやるためにこういうふうなカリキュラムにしたいのですけどどうですかというのを提案して、それを授業者の意見とを合わせて授業を作るみたいな形になつてもいいのではというぐらいの気持ちで見ておりました。</p> <p>今回の授業者はすごく子ども達に慕われていて、子ども達のことをよく見てくださる、素敵な先生だと思うのです。ただ、学校という場は、授業だけではない部分が増えてきているし、むしろそちらの方が大事だという場面が多い気がするので、その辺のやり方は、私が学校に勤めていた時代とは違う形も模索していくべきではないのかなというふうに、今回の2つの授業を見て、深く感じた次第です。</p>

教育長	<p>貴重なご意見と思います。</p>
委員	<p>今のご意見、僕はよくわかります。研究授業をする場合は指導案を書かなければならぬなど、授業者の負担が大きい。授業者にできるだけ負担がかからないような形を学校全体でサポートするような体制というのは、おっしゃっている通り大事だと思います。</p> <p>できるだけたくさん的人が研究授業ができるような体制を取らないと、「あの先生とこの先生しかできない」とか、そういう雰囲気にならなければいけないので、教育委員会はサポートできないかとも思いますし、学校全体で、多くの方が授業研究できるようにサポートしていくという流れを作っていくことは大事だなと思いました。</p>
教育長	<p>他にはどうですか。今の指導案についての話ですが、今この5人のメンバーには教職経験者が結構いるので、もうみんな経験してきてていることだから、それぞれの思いもあるでしょう。今言っておられた、教委などとの分業という観点も、例えば働き方改革とか、いろいろな部分を考えたらそれもあるかもしれないですね。一方で、授業者がしんどい中でも取り組むことで、自分が成長していくという面もあると思います。部会でやっておればいろいろな意見が出て、初めに作ったものより、どんどんバージョンアップしていったということが僕の経験の中では結構多いように思うので、組織的に指導案を作るというのも良いのではないかと思います。</p> <p>他にどうですか。指導主事はそのあたりについてどうですか。</p>
事務局	<p>研究授業の位置づけによると思います。法定研修と呼ばれる、1・5・10年目研は、個人の力量を高めなければいけないので、これはゼロベースでその担当者が作ることが大事です。</p> <p>校内研究授業に関しては、例えば小学校の場合なら、低・中・高学年という集まりがある中で揉んでいきます。たたき台を授業者が出し、授業者がやりたい方向をふまえて、キャリアにとらわれずにみんなが意見を出していくという形です。</p> <p>今回の英語に関しては、町の「使える英語プロジェクト」の一環としてやっている部分があり、英語に特化しています。どうしても英語は学年別になってしまって、学年をまたいでの討議会とか研究は難しい部分もあるみたいです。</p> <p>今はいろいろなところから情報が出ているから、今回見た指導案も、探すと、</p>

	<p>これはどこかのテンプレだなっていう部分が多いです。だから授業者本人はゼロベースから作ったと思っていても、各教科書会社が出しているデジタルデータから引っ張ってきた文言と一緒にだと、こちらは見ながらチェックしているので、そういう意味では授業者の負担は本当に重いのかどうか。仮にテンプレであっても、そこにどう自分のエッセンスを加えるかっていうところが、授業者の力量かなとは思いますが。</p> <p>中学校の学年、教科の壁という点は、さらにこちらも研究していきたいと思っています。</p>
教育長	<p>最後に少しお話をさせていただきます。</p> <p>今の論議で出たように、授業者個人の思いは大事なのですが、各学校園が目標として掲げているものを、組織の一員としてみんなが意識してほしいと思います。その上で、授業者個人の工夫はそれぞれが行なっていけばいいし、逆に工夫がなければ、それこそ誰がやっても同じという、画一的な授業になってしまします。現場の先生方が自分の特徴を活かしてやってみたい活動や各教科の授業、設定保育を通じて、最終的に各学校園の目標が実現されていく。こうしたことをみんなが意識していると、討議会でも一本筋の通った論議ができるのではないか。河南町として、私個人の思いとして、KANAN BEAMを拠り所にして取り組みを進めていきたい、みんながバラバラにやりたいことをやるのではないということを確認したいと思います。</p> <p>教育委員の皆さんにはまた来年も視察をしていただきますし、振り返りの方は引き続き考えていきましょう。もっと小刻みにするのもいいかもしれません。例えば1回目の視察のあと、夏ぐらいにこういう場を持つ方が、印象が鮮明に残っていて議論がより良いものになるでしょうから、今後改善していきましょう。</p> <p>他にご意見がないようですので、次に「(6) 学校給食における残食・残品等の取り扱いについて」に進みますが、これにつきましては、人事に関する案件が含まれるので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7号の規定に基づきまして、これより非公開としたいと思います。</p> <p>お諮りいたします。6番目の学校教育、給食における残食・残品等の取り扱いについて、非公開で行うことに賛成の方の挙手をお願いします。</p>
委員 教育長	<p>———— 全員挙手 ———</p> <p>挙手全員と認めますので、これによりまして「(6) 学校給食における残食・</p>

「残品等の取り扱いについて」は、非公開とすることに決しました。
会場の閉鎖をお願いいたします。

―― 会場封鎖 ――

会場の封鎖を確認しました。

※※※※※※※※ 以下 非公開 ※※※※※※※※

教育長 では「(7) その他」ですが、事務局から何かありますか。ないようですので、以上をもちまして本日の議事日程はすべて議了しました。これをもって、12月の教育委員会定例会を閉会します。
次回開催日は令和7年1月29日水曜日の午前10時からと決めていただいております。2月の定例会は、令和7年2月20日木曜日の午前10時から、場所は4階の大会議室南です。
よろしくお願いします。本日はご苦労様でした。

令和　　年　　月　　日

教育長名

署名委員名